



「アトリエを訪ねて」(1974年5月4日、TBSにて放映)より
©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates / TBS HD

「高松次郎：アトリエを訪ねて」

会期：2016年6月16日(木) - 7月9日(土)

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#206

営業時間：12:00-19:00 定休日：日、月、祝日

協力：中西博之、松井茂、鷹野隆大、山本紉、TBS テレビ

レセプションパーティ：6月25日(土) 18:30 - 20:00

トークイベント：6月25日(土) 17:00 - 18:30

※中西博之(国立国際美術館主任研究員)×松井茂(詩人、情報科学芸術大学院大学准教授)

2016年6月16日(木)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku にて、「高松次郎：アトリエを訪ねて」展を開催いたします。

本展の開催を記念しまして、国立国際美術館主任研究員である中西博之氏と情報科学芸術大学院大学准教授の松井茂氏をお招きして、トークイベントを開催予定です。さらに、イベントに合わせ、中西氏による論稿が掲載された研究冊子も刊行致します。この機会に是非ともご高覧ください。

高松次郎(1936-98年)にとって1974年という年は、「影」「遠近法」「単体」などのシリーズ作品を既に発表し、現代美術の世界で数々の受賞を重ねるなど、確たる地位にあった時期であるが、そういう74年の5月、高松は「アトリエを訪ねて」というテレビ番組に出演し、数々のシリーズ作品を紹介するとともに、自らの芸術観を語る。数年前、その番組を記録したテープが再発見され、2014年から15年にかけて行われた高松次郎展(東京国立近代美術館での「高松次郎ミステリーズ」と国立国際美術館の「高松次郎 制作の軌跡」)に合わせて、CS放送で流された。またそののち大阪での高松次郎展の会場でも上映された。

今回の展覧会「高松次郎 アトリエを訪ねて」は、その貴重なテレビ番組を再度上映して、その真価を再確認することを第一の目的とするものである。他に、高松次郎旧蔵のアトリエ内での記録写真、2人の写真家山本紉と鷹野隆大によって撮影されたアトリエの解体直前の写真などを併せて展覧し、高松次郎が数々のシリーズを制作した場所であったアトリエを初めて本格的に紹介するものである。

**■レセプションパーティー**

日時：2016年6月25日（土）18:30-20:00

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

■トークイベント

本展の開催を記念し、中西博之氏と松井茂氏によるトークイベントを開催いたします。

日時：2016年6月25日（土）17:00-18:30

会場：Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

登壇者：中西博之（国立国際美術館主任研究員）×松井茂（詩人、情報科学芸術大学院大学准教授）

※事前申込制、参加費：無料

※会場にて研究冊子『高松次郎：アトリエを訪ねて』（通常価格¥1,000+税）を、特別価格¥800（税込）にて販売致します。

中西 博之 (Hiroyuki Nakanishi)

1964年京都生まれ。神戸大学文学研究科修了。現在、国立国際美術館主任研究員。主な展覧会企画に「美術家の冒険：多面化する表現と手法」(1996)、「空間体験：国立国際美術館への6人のオマージュ」(2000)、「主題としての美術館：美術館をめぐる現代美術」(2001)、「エッセンシャル・ペインティング：1990年以降のヨーロッパとアメリカの絵画」(2006)、「森山大道：オン・ザ・ロード」(2011)、「リアル・ジャパネスク：世界の中の日本現代美術」(2012)、「高松次郎：制作の軌跡」(2015)、共同企画に「シュテファン・バルケンホール：木の彫刻とレリーフ」(2005)、「陰影礼讃：国立美術館コレクションによる」(2010)など。

松井 茂 (Shigeru Matsui)

1975年東京生まれ。詩人、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)准教授。詩集に『同時並列回路』『量子詩』『オルガ・ブロスキーの墓』(Aloalo International, 2006)『音声詩 時の声』(photographers' gallery, 2010)など。編著に『虚像の時代 東野芳明美術批評選』(河出書房新社, 2013)『日本の電子音楽 続 インタビュー編』(engine books, 2013)。論文に「今野勉 ラディカルなテレビ表現をするレジスタンス」(『放送研究と調査』, 2015)など。展覧会の監修に「磯崎新 12×5=60」展(ワタリウム美術館, 2014)など。

【お申し込み方法】件名「トークイベント参加」、本文に、参加人数、お名前、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp までメールでお申し込みください。

*定員（20名）になり次第、受付を終了いたします。

*ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

■研究冊子

本展の開催に合わせ、研究冊子を刊行致します。

『高松次郎：アトリエを訪ねて』

執筆：中西博之

ブックデザイン：小沼宏之

発売日：2016年6月25日（土）

仕様：A5判、24頁、和英バイリンガル、モノクロ仕様

発行元：ユミコチバアソシエイツ

協力：松井茂、鷹野隆大、山本紉、TBSテレビ

定価：1,000円（税別）

ISBN978-4-908338-04-5 C0070 1000E

*ご購入は、全国の書店、本展開催ギャラリー、もしくはYCAオンラインストアにて
<http://ycassociates.thebase.in/>**■スポンサー**

研究冊子の制作、及び展覧会の実現にあたって、JSPS 科研費 26503003「戦後日本におけるマス・メディア受容と現代芸術の文化学」の助成を受けました。



■作家プロフィール

高松 次郎 (Jiro Takamatsu)

1936年 東京に生まれる。1998年 歿。

＜主な展覧会＞

- 2016 「JIRO TAKAMATSU」 Kayne Griffin Corcoran、ロサンゼルス、USA
 2015 「高松次郎 制作の軌跡」国立国際美術館、大阪
 「イメージに置ける主語の不在 —文字、写真の作品より—」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 「JIRO TAKAMATSU」STEPHEN FRIEDMAN GALLERY、ロンドン、イギリス
 2014-15 「高松次郎ミステリーズ」東京国立近代美術館
 2014 「Cazador KURAMATA Shiro/TAKAMATSU Jiro Photographed by FUJITSUKA Mitsumasa」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 2013-14 「ハイレッド・センター「直接行動」の軌跡展」名古屋市美術館、名古屋/渋谷区松涛美術館、東京
 2013 「JIRO TAKAMATSU」STEPHEN FRIEDMAN GALLERY、ロンドン、イギリス
 「遠近法 — 平面上の空間」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 2012 「万物の碎き」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 「この七つの文字」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 年末以降に三鷹のアトリエ兼住居が改築のため取り壊される。
 2011 「Jiro Takamatsu」Fergus McCaffrey、ニューヨーク、USA
 「光と影」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 「言葉ともの —純化とトートロジー—」NADiff Gallery、東京
 2010 「Jiro Takamatsu Shadow Paintings」Fergus McCaffrey、ニューヨーク、USA
 「Jiro Takamatsu Early Works」ユミコ チバ アソシエイツ/ビューイングルーム 新宿、東京
 2009 「第5回太宰府天満宮アートプログラム 高松次郎|鷹野隆大“写真の写真”と写真」太宰府天満宮、福岡
 2008 Daiwa Press Viewing Room vol. 08 「3,918 drawings by Takamatsu Jiro」ビューイングルーム 大和プレス、広島
 2004 「高松次郎—思考の宇宙」府中市美術館、東京/北九州市立美術館、福岡
 2003 「再検証・高松次郎絵画作品〜アトリエより〜」三鷹市美術ギャラリー、東京
 2000 「高松次郎 1970年の立体を中心に」千葉市美術館、千葉
 1999 「高松次郎—「影」の絵画とドローイング」国立国際美術館、大阪
 1996 「高松次郎の現在」新潟市美術館、新潟/三鷹市美術ギャラリー、東京
 1995 三鷹市芸術文化センターの緞帳原画《はばたく永遠》を制作する。
 1989 名古屋駅地下に壁画《イメージスペース・名古屋駅の人々》を制作。
 1977 「ドクメンタ6」カッセル、西ドイツ
 国立国際美術館（大阪）に影の壁画を制作。
 1974 TBSによる美術番組「アトリエを訪ねて」に出演。
 福岡相互銀行（現・福岡シティ銀行）本店のための《影の部屋》を制作。
 1973 「第12回サンパウロ・ビエンナーレ」サンパウロ、ブラジル
 1972 第8回東京国際版画ビエンナーレ展で《THE STORY》が国際大賞を受賞。
 1971 自宅アトリエで「塾」を主宰。（'74年頃まで）
 1970 万国博覧会の日曜広場に《遠近法の日曜広場》を設置。
 「第1回画廊企画展 高松次郎 1961~70」ピナール画廊、東京
 「アトリエ開放展」（三鷹市の自宅アトリエにて、東京）
 1968 「第34回ヴェネツィア・ビエンナーレ」ヴェニス、イタリア
 第34回ヴェネツィア・ビエンナーレでカルロ・カルダッツォ賞を受賞。
 1967 「第5回パリ・ビエンナーレ」パリ、フランス
 第5回パリ・ビエンナーレでテオドラン財団賞を受賞。
 三鷹市に転居。
 1966 「高松次郎“アイデンティフィケーション”」東京画廊、東京
 1958 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業。

[主なパブリック・コレクション]

青森県立美術館、いわき市立美術館、宇都宮美術館、神奈川県立近代美術館、国立国際美術館、埼玉県立近代美術館、滋賀県立近代美術館、静岡県立美術館、高松市美術館、千葉市立美術館、東京国立近代美術館、新潟県立近代美術館、新潟市美術館、豊田市美術館、平塚市美術館、兵庫県立美術館、府中市美術館、東京都現代美術館、三鷹市美術ギャラリー、宮城県美術館、富山県立近代美術館、Solomon R. Guggenheim Museum, Minneapolis Institute of Arts, Miami Art Museum, Dallas Museum of Art, The Museum of Modern Art, New York, Tate Modern

**鷹野 隆大 (Ryudai Takano)**

1963 福井市生まれ
2006 第31回木村伊兵衛写真賞受賞

<主な展覧会>

- 2015 「愛すべき世界」丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、(香川)
2014 「ヒモとコーラ：大宰府の高松次郎」Capsule、(東京)
「2014年1月から比較的最近まで、撮影順に」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
「これからの写真 光源はいくつもある」愛知県美術館(愛知)
2013 「香港、深セン 1988」ツァイト・フォト・サロン(東京)
「Face Value: Portraits from The Kinsey Institute」The Kinsey Institute Gallery State of Indiana(インディアナ州, アメリカ)
2012 「モノクロ写真」Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku(東京)
2011 「ANTIFOTO 2011」Kunstraum(デュッセルドルフ, ドイツ)
2010 「写真分離派宣言」ナディッフ(東京)
「スナップショットの魅力-かがやきの瞬間-」東京都写真美術館(東京)
2009-10 「真方を愛するときと憎むとき」沖縄県立博物館・美術館(沖縄)
2009 「第5回 太宰府天満宮アートプログラム 高松次郎 | 鷹野隆大 “写真の写真”と写真」太宰府天満宮 宝物殿(福岡)
2008 「Daegu Photo Biennale 2008」EXCO テグエキシビジョンアンドコンベンションセンター(大邱広域市, 韓国)
2007-08 「A Private History」フォトグラフィックセンター(Copenhagen, Denmark)/VB-フォトグラフィックセンター(Kuopio, Finland)
「液晶絵画展 スティル | モーション」三重県立美術館(三重)/国立国際美術館(大阪)/東京都写真美術館(東京)
2007 「Japan Caught by Camera - Works from the photographic Art in Japan」上海美術館(上海, 中国)
「現代日本芸術祭」ヘイリ芸術村(坡州, 韓国)
2006 「第31回木村伊兵衛写真賞受賞作品展 In My Room」コニカミノルタプラザ ギャラリーC(東京)
2005 「ポスト・ジェンダー」ティコティン美術館 Haifa, Israel
2004-10 「Out of the ordinary / extraordinary」国際交流基金ケルン日本文化会館(Cologne, Germany)以降、スペイン、ベルギー、イタリア、イギリス、メキシコ、アメリカ、日本、フィリピン巡回
2004 「日常の変貌」群馬県立近代美術館(群馬)
2003 「Mask of Japan : Japanese Contemporary Photography」aura gallery(上海, 中国)
2002 「Japanese Contemporary Art 展」トルコ中央銀行ギャラリー(イスタンブール, トルコ他)
2001-02 「手探りのキス 日本の現代写真」東京都写真美術館(東京)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(香川)
2000 「ヨコたわるラフ」ツァイト・フォト・サロン(東京)

山本 糾 (Tadasu Yamamoto)

香川県生まれ

<主な展覧会>

- 2016 「何も遮るものがない場所」ギャラリー・ハシモト(東京)
2015 「対馬アート・ファンタジア 2015」対馬市(長崎)
2014 「対馬アート・ファンタジア 2014」対馬市(長崎)
2013 「光・水・電気」ギャラリー・ハシモト(東京)
2012 「光・水・電気」豊田市美術館(愛知)
2009 「第1回所沢ビエンナーレ美術展<引込線>」西武鉄道旧所沢車両工場(埼玉)
2008 「所沢ビエンナーレ・ブレ美術展<引込線>」西武鉄道旧所沢車両工場(埼玉)
「JARDIN」ギャラリー・ハシモト(東京)
「Falling Water」McCafferey Fine Art, New York(ニューヨーク, アメリカ)
「雨引の里と彫刻 2008」桜川市(茨城)
2007 「ATTITUDE 2007/人間の家」熊本市現代美術館(熊本)
「QUICKSILVER」ヒノギャラリー(東京)
2006 「雨引の里と彫刻 2006」桜川市(茨城)
2005 「自然の彼方」姫路市立美術館(兵庫)
「落下する水」川崎 IBM 市民ギャラリー(神奈川)
2003 「雨引の里と彫刻 2003」桜川市(茨城)
2002 「GARDEN」ヒノギャラリー(東京)
「傾く小屋 美術家たちの証言 since 9.11」東京都現代美術館(東京)
2000 「暗い水」ヒノギャラリー(東京)
「アートイング 2000:16x16」ギャラリー現(東京)

【本展に関するお問合せ】ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチパソシエイツ 担当：鈴木、加藤

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Tel] 03-6276-6731 [e-mail]

info@ycassociates.co.jp [website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日